

現の、街で。

—江 弘毅

Q—服もテレビもパソコンもクルマもぜんぜん売れなかった昨年だったけど、今年はどうな具合なんだろうね。

A—売れなかったら困るわけ？ Q—全然困らない。でも、自分の仕事に関係があるのは困る。 A—そりゃそうだ。クルマのセールスマンは、クルマ売れなきゃ話にならない。

Q—でも一消費者、生活者としては、あんまり買いたいとは思わない。

A—本当に思わないか。僕はいつだって新しい服もほしいし、クルマだって乗り替えたい。フランク料理だって食べたいよ。 Q—パブルが完全に終わって、この不況下でもそう思うの。

A—何で不況だからといって、買ひかえたりしなきゃならないわけ。カネがあれば、いっぱい買ったり遊んだりすればいいじゃない。

Q—そういう人は幸せだよ。

A—それじゃ不幸なわけ、今は。あの頃、あれだけパブリーなものに関して非難したり、無意味だとか言って、それが完璧に消滅した今は、かえって居心地が悪いわけか。それはおかしよ。 Q—いや違うよ。不況なのがいかんわけだよ。パブルが不況かの二者択一。どちらでもいいやな世

の中だ。

A—でもそれが現実だよ。パブルはいかん、でも不況もいかにそんなトロイことを言っちゃだめだ。ベルサーチ好きなら、ずっとベルサーチ買ったらいいし、ドンペリ飲みたいたら飲むようにした方がいいよ。それができないなら、始めからやめた方がいい。みんな宝くじにあたったみたいな気分になって、好きでもないのにアルマーニ着たり、シャンペン飲んだり、フグ食ったりしたんじゃない。それがそもそもまぢがいた。何か急にハイソサエティになれたみたいに。結局何もならなかった。センスも相変わらず悪い。

Q—だからずっとそれを言い続けてたよ、俺は。

A—じゃ、それいい。でもちょっと好きの奴は、今シーズンフグの値段が下がった、て喜んで食ってるし、アルマーニの好きな客だって、上代がちよっと下がってよかったって、言ってるよ。昨年一年、アルマーニは神戸じゃメンズに限っていうと昨対120%だって聞いた。やっぱりそうなんだよ。あの頃、必死にミラノの本店で買いたくって、得したんだとか言ってる。今はとんでもない。ここ一年ブティックすらのそいたとがない、なんて奴がいちばんダサイ。

Q—そうそう。あの頃、すごく儲けてて今はシニョンとてる人。 A—いや、ほんとうはそんなに儲けたわけじゃないのに、ちよ

つとポーナスが10万円くらいアップしたからって、香港へ行っているんなもの買った奴。〇しなんかとおんなじしベル。そいつらがいちばんカッコ悪い。

Q—あなたはパブル容認派だと思ってたけど、そんなこと言っの、今になって。

A—それは全然違うよ。やっぱりどちらかというと、パブルが弾けてザマアミ口の側だよ。ダウンタウンに生きてる奴は、そんな奴が多いと思う。自分の商品は別にしてね。そこがザマアミ口の側でもキミらとは違うところだ。

Q—うーん、ちよっと分らないなあ。

A—僕が言ってるのは、景気やらその時の自分の状況やらで、消費生活そのものを考えてしまえる、というのが信じられない。当然、考え方は変わるし変えなきゃやってられない。でも長い間かかって体に刻みこまれた、嗜好やら趣味やらを変えてくる奴。2年前と今じゃ別人に見える。なんて信用できるか。

Q—フロアイル江 弘毅はいつによく生きてる。ボジティブだ。人が好きだから、彼は出てきてる人間。モテ、現象の胸ぐらをつかみ握る。私も7年ほど前に初めて彼と会った時には泣かされた。その後も何度か泣かされたが彼も何度か泣いてた。彼は多分「ミラー・ジョナル」で街を走り回っている。彼が泣きながら走り回っている限り、かけ離れない。彼は彼の仕事を欲求しているのだ。記憶じゃなくワケを知ってる彼は正味で恰好ええ男である。(ハッキー・イェン)

珍獣総進撃

—和泉 修

今回のネタは吉本のタレントではなく、僕がよく知っているトレンディー俳優優といます。そのトレンディー俳優とは、その名も「赤井英和」。大阪の人間は赤井と聞けば、「浪速のロッキー」がすぐ出て来ますが、東京の人間や最近の若者は、赤井さんが、プロボクサーだったことは知らない人がほとんどです。それにそのへんのプロボクサーとは違って、世界タイトルマッチに挑戦したこともあるボクサーだったのですよ。その赤井英和さんと、何故僕が知り合いかと聞くと、実は高校時代の先輩、後輩の間柄なのです。二人とも大阪の浪速高校のボクシング部で、僕は赤井さんに憧れてボクシングを始めたと言っても過言ではないケゴンの魂なのです。そんな二人が今度芸能界での先輩、後輩になります。ここでちよっと余談になりませんが、浪速高校出身の芸能人は、他にも笑福亭鶴瓶さ



んや、藤本義一さんらがいらっしやるし、引退されましたが吉本新喜劇の室谷信夫さんや松竹にも若手でとりいれるそうです。赤井さんとそんな関係なので、ボクサー時代のことや、学生時代の思い出がたくさんありますので今回は吉本ネタではありませんが、「赤井英和の知られざる世界」と題して書いてみたいと思います。

高校時代は僕が一年の時、赤井さんが三年、南海高野線で浪速の赤井と言えは、知らないものがないくらい、ケンカでは有名で、僕も練習が終わってから、よく一緒に電車をかえりましたが、ちよっと電車掃除して帰ると言いながら、ふんぞりかえって座っている学生の足を蹴って車両の前から後ろへ、そしてかかってくる奴らには、ワントーパーチをくりだして、電車内の秩序を守っていました。僕が赤井さんのために活躍したのは、電車で乗り遅れそうな時です。それは電車がまだとまっていて、もう少しで乗れるとき、赤井さんが「釘田ダッシュ」の一言で、電車の入り口まで走って行き、赤井さんが来るまで、何回も扉に挟まれて待つ技です。名づけて「はさまれ」。ケンカだけでなく、昔からおもしろい人で、僕が同志社大学の三年の時、赤井さんが浪速のロッキーで10連続KOを続けていて人気絶頂のところ、徳島の観音寺という寺で、同志社と浪速高校が合同合宿をしたのですが、その

ときに赤井さんが浪速高校のOBとしてきてくれて、同志社の部員にあいさつしてくれることになり、僕が部員に「赤井さん」が今からこっちに来てくれるぞ」と言っと、みんな憧れの赤井選手に会えるので部屋を片付けていると、そこへ赤井さんは、なんと、ふりちんであらわれ、15分にわたって、アメリカ力の貿易摩擦など訳の分からないをしゃべって部屋から出て行ってしまいました。僕は昔から赤井さんを知っていたので大笑いしましたが、部員たちはあまりの衝撃に笑うこともできずに、ほかあんとしていたのを覚えてます。他にも書ききれないくらいあるので、尊敬する赤井先輩のためにこれくらいにします。次回をおたのしみです。

フロアイル 本名：釘田修吉。1966年生まれ。同志社大学文学部卒。吉本興業所属。1985年5月、選手コンピ手帳としてデビュー。今宮新入選手コンクール受賞。上方お笑い大賞特別賞、花王新人大賞新人賞受賞等、受賞多数。学生時代にはボクシングで活躍し、高校フェニックスチャンピオン(昭和55年)に輝く。また、カバディ第一回社会人大会優勝。ドッチボールは関西一と譽れる。通称吉本一のスピードが。現在は、ラジオ、TVのパーソナリティー、レポーター、同会等、ソロでも活躍中。喋って、踊って、ギャグれる。プロボクサーである。